日吉津小新聞

チューリップを広めよう

３年生が寄せ植え

チューリップの寄せ植えチームは、昨年11月9日から12月にかけて、ビオラとアリッサムの寄せ植えに取り組んだ。

日吉津の村を美しく飾るために3株の花を丁寧に植えた。寄せ植えの中には、白い花の咲く「ホワイトマーベル」と、紫の花が咲く「エンデュランス」というチューリップの球根を植え込んでいた。

作業に取り組んでいる3年生にインタビューをすると、「日吉津村のチューリップ農家さんが少なくなってしまったから、チューリップは日吉津の宝なのにどうして育てる人が減ったのかなあと思って、育ててみたいなあと思ったからです」と答えた。また、「日吉津村にたくさんのチューリップを植えていきたいな、と思います」と答えてくれた。

寄せ植えチームはこれからもチューリップのことを広めるためにいろいろな活動をしていくということだ。

３年生が植えたビオラとチューリップ

村の宝 チューリップを守る

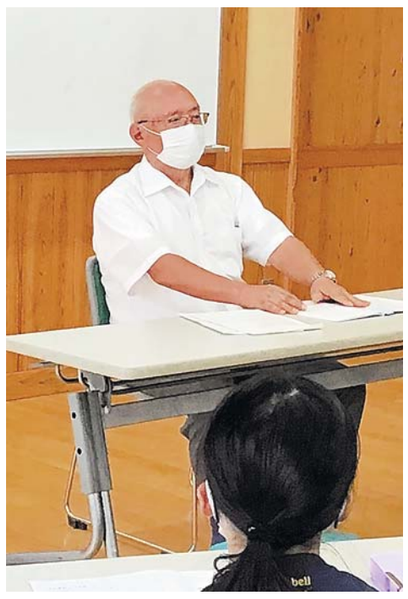
日吉津小の３年生は、総合的な学習の時間に日吉津の宝物「チューリップ」についていろいろな人に知ってもらい、もっとチューリップを見てもらいたいと学習を深めていった。

3年生が作った新聞です

チューリップを守る人たち❶　山西さん

農家5軒で1万2500本栽培

気を付けるのは田んぼ選び


3年生に話をしてくれる山西さん

昨年9月8日、総合的な学習の時間に、チューリップ農家の山西敏夫さんに3年生31人がチューリップについての話を聞いた。山西さんは、村から頼まれてチューリップを育てておられる方だ。

日吉津村では今、5軒の農家で1万2500本ぐらいのチューリップを育てているということだ。チューリップを育てるときに気を付けているのは、田んぼを選ぶことだそうだ。チューリップには乾燥している田んぼがいいそうだ。山西さんは「11月に植え付けをして、春に育てた花が咲くととてもうれしい、花を見に来てくれる人の姿を思いながら育てている」と話された。

チューリップを守る人たち❷　長谷さん

「将来一緒に植えよう」

満開の畑懐かしみ約束

チューリップ新聞チームの３年生８人は昨年11月11日、チューリップマラソンについて教えてくれた高森彰さんの紹介で、本年度から始められた新しい栽培グループの長谷真治さんに出会った。

長谷さんが小さい頃は、チューリップ畑で、チューリップを見たり、シートを敷いてお弁当を食べたりしたそうだ。今はチューリップが少なくて悲しい、だから自分でチューリップを植えることにしたということだ。

30年前、チューリップ畑で弁当を食べる長谷さん一家

「３年生のみんなには、これからチューリップを見たり、チューリップマラソンを走ったりして思い出を作ってほしい。そしてみんなが大人になったらチューリップを一緒に植えよう」と長谷さんは話された。

みんな来て！ チューリップマラソン

高森さんに話を聞く

３年生に教えてくれる高森さん

毎年４月の第2日曜日、日吉津村の富吉から出発して、村内を走るチューリップマラソンが行われている。走る道の横の田んぼや、道に置いてあるプランターにチューリップが咲いている。

チューリップマラソンがいつからどのように行われたか調べるため昨年11月21日、日吉津村役場にお勤めの高森彰さんにお話を伺った。

チューリップマラソンは、1979（昭和54）年4月15日に初めて開催された。青年団の人を中心に大会を開いた。チューリップマラソンを開くことで、知らない人も村づくりで仲良くなり、つながりができていったそうだ。

コースは、チューリップ畑のそばを走るように決めている。自治会や個人のプランターや球根を育ててくれる人に渡して、当日飾ってもらっている。

高森さんは「普通の大会は予約がいるが、チューリップマラソンは、当日受け付けで走ることができる。来る人が分からないとお金の心配はあるが、たくさんの人に参加してもらうことがうれしい、チューリップを見て喜んでもらってうれしい」と話された。

なくなったチューリップ

石川さんから歴史学ぶ

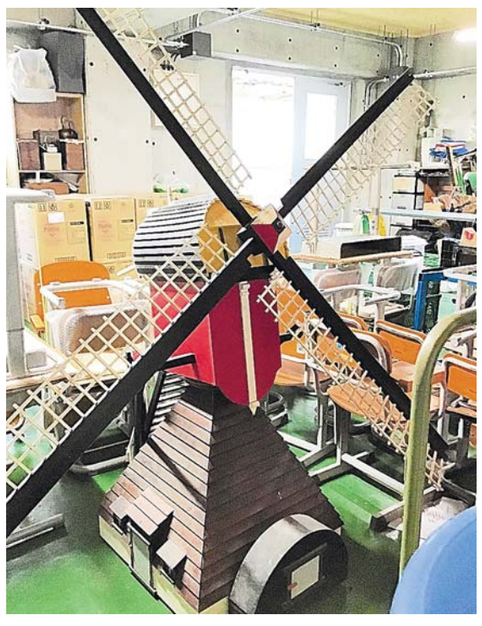
3年生の新聞チーム8人は昨年11月18日、日吉津のチューリップの歴史に詳しい石川倫温さんに次のような話を聞いた。

1962（昭和37）年ごろの日吉津村では、カイコが育てられていた。カイコは後に売れなくなって日吉津は貧しい村となった。鳥取大の教授が、「チューリップを育てるといいかもしれない」と日吉津村に教えてくれた。

育てた球根の種類は「レッドマタドール」のほか、30種類くらい。日吉津の100周年記念には、球根の産地オランダのヒレゴムに連絡して交流した。ヒレゴムの近くのキューケンホフ公園に農家さん32人で研修に行った。

しかし、農家さんの高齢化や気候の変化で、冬にアブラムシが増え、チューリップが病気になったことで、チューリップ畑が9㌶から5㌶ぐらいに減ったそうだ。取材を通じて、日吉津のチューリップにいろいろな歴史があることにびっくりさせられた。むかしのように村に9㌶ぐらいのチューリップ畑が欲しいと思った。

日吉津のチューリップに詳しい石川さん


交流のなごりとして学校の倉庫にある風車の模型

「農家の仕事すごい」

立脇さんの畑で球根植え

3年生31人は日吉津村富吉の立脇賢二さんの畑で昨年11月7日、総合的な学習の時間にチューリップの球根植え体験をした。

村内でチューリップを育てておられる山西敏夫さんに教えていただきながら行った。みんな笑顔で楽しく球根植えをした。植えたチューリップの名前は、「ジュテーム」という。オレンジ色の花が咲く球根だそうだ。1人5個ずつ手に渡してもらった。畑に穴が開けてあり、そこに球根を置いていった。

「山西さんたちは、チューリップマラソンに向けての球根は何百個もあるのに、少ない人数で育てておられすごい。きれいに育ってほしい」と3年生は感じていた。

球根を植える3年生

学校概要

【学校名】日吉津村立日吉津小学校
【所在地】西伯郡日吉津村日吉津872番地12
【校長名】太田　敦弘
【児童数】221人
【教育目標】心はずませ　なかまとともに　挑みつづける児童の育成

【めざす児童像】
「夢」夢見る子…みらいづくり
「知」自ら学ぶ子…まなびづくり
「徳」ともに生きる子…なかまづくり
「体」やりぬく子…こころ体づくり

沿革

日吉津小は、1873（明治6）年に開校した歴史のある学校である。周囲2㌔四方の校区は、田畑と商業施設が共存している。地域の人と結び付きが強く、大豆、サツマイモ、米などの栽培活動や、本の読み語りをしてもらっている。算数科を中心に「教えて考えさせる授業」を研究し、本年度は、昨年11月14日に市川伸一先生（東京大大学院教育研究科教授）をお迎えし、授業研究会を行った。未来の日吉津村を担う子どもたちの育成を目指した教育活動を実践している。

編集後記

- 日吉津のチューリップはずっと続いてほしい。
- 日吉津はチューリップが大切で、みんなにきれいだと思ってほしいことが分かった。
- チューリップをみんなの思い出にしたい。
- これからもチューリップを植えて、県外からも日吉津に来てチューリップマラソンを走ってほしい。
- 役場や小学生など、いろんな人が工夫してチューリップを増やし、見てもらおうという気持ちが伝わってきた。
- チューリップの色や名前などが分かった。
- 日吉津の人たちはチューリップを大事に思っていることが分かった。
- 大人になったらチューリップを植えたい。

教育に新聞を NIE Newspaper in Education